



メルボルン21世紀日本文化振興芸術賞  
伊藤國夫

湖の息吹  
2006年 69×55cm

「大地の芸術祭」の一駒。残照に彩られた白いオブジェが湖面に浮かんでいる。手前から奥まで幾何学的な線を描きながらオブジェが湖面をリズムカルに配されている。全体の構成の中で、夕日の橙色が単調になる湖面の画面を救い、また、オブジェの浮かぶ湖面の背景が黒く落ちたことによつて、ひときわ白いオブジェを引き立たせている。オブジェの影が湖面に映りこんでオブジェの数は倍になり、より湖面に対するオブジェの主張を強くしている。作家はこのオブジェを活かすために背景の木々が暗く落ちる時間帯を選んでいる。オブジェをとらえる視点も高すぎず、低すぎず、オブジェをオブジェとしてとらえるにふさわしいアングルだ。静かな空間の中に、湖の漣が動のアクセントを与えている。自然の風景の中にある人工としてのオブジェを、作家は特別な街いもなく、夕照に映える時間とフレーミングによつて幻想的な世界へと作り上げた。作家の美に対する素直な眼差しが感じられる作品だ。



ITO, Kunio